

5年生

# 月間報告

2016年7月

生徒氏名: D

責任者:

**【責任者とは】**

授業では複数の講師がローテーションしながら1人の生徒を指導しますが、月間報告は1人の講師が長期的に担当し、生徒の成長を見守っています。また、この報告書は講師全体で共有され、授業に還元しています。

**①今月の最重要課題とその対策**

本文の表現をもとにしてプラスマイナスを掴む

**②その他課題と今月の対策**（「今月の対策」は具体的な内容が必要な場合のみ記入します）

現状の課題	今月の対策
(作文)大切な情報を書き落とさないようにする	作文に記述の内容を反映させる
(読解)記述はそれ自体として完結したものにする	問われていることに対応しているか、に注意する

**③先月の教材ごとの取り組み数とその状況**

教材名	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	状況
小さな町の風景	1	1	1	1						よく考えながら取り組んでいる
科学なぜどうして(中級)	1	0	0	1						作文の内容が良くなかった
	<p><b>【取り組み数について】</b> 上記の数字「0」や「1」は、作文を書き上げた本数を意味します。毎回コンスタントに『小さな町の風景』をこなし、『科学なぜどうして』にも取り組んでいるというのが理想的なペースです。</p>									

**④責任者コメント欄**

『小さな町の風景』は短編の物語集で、語句の意味を問う選択問題の後に、本文に関する記述問題(60字)に取り組みます。主に登場人物の心情やそれが変化した理由を尋ねるものが多いのですが、すぐに思いついた言葉で済ませてしまうのではなく、より良い表現を練るように伝えていきます。「問題が何を求めているのか」を念頭に置いて、本文における人物像や風景の描かれ方を十分に汲みとっていくことにつながります。

具体的な例として「主人公の少年の気持ちが変化した理由を、どのように変化したのかも明らかにしながら説明せよ」という設問を取り上げます。D君は心情の移り変わりに着目できており、「諦めかけていた(マイナス)」から「希望が湧いてきた(プラス)」と変わったことを明確に表現し、その理由もしっかりと考えられていました。このようにプラスマイナスを意識することが、場面の展開を正しく読み取る上で大切です。

記述問題の次は要約作文です。先に設問で押さえた箇所は本文において重要であり、要約作文でも必須の情報です。既に一度表現を出しているのでも、同じものを安易に用いてしまうのではなく、さらに良くしようと熟考してもらいたいところですが、そこが物語の肝となるという意識が薄く、記述での表現の引用に留まっていた。本文全体の大きな枠の中で一場面の意味合いを再度考えなければいけません。例えば、上記の「希望が湧いた」というのは、「それによってどうなったか」を考慮すると「もう一度前に進もうと決意した」というように言い換えられます。

『科学なぜどうして』は主に科学的な事柄の理由が述べられており、それを的確に捉えて書き表すことを目的として取り入れています。しかし作文では「なぜなら」や「だから」を用いずに説明をしていました。そのためテーマは読み取れているものの、書き上げたものを見ても「なぜそうなっているのか」が分かりにくいものが多かった。しっかりと理由のつなぎ言葉を使用するように気を付けてもらいます。

**⑤保護者記入欄** (要望、疑問などありましたら、どのような内容でも構いませんのでお書きください)

■『小さな町の風景』の進め方とそれぞれの作業の目的

- ①語句の意味を問う選択問題
- ②内容に関する記述問題 本文の重要箇所についてより深く理解する
- ③要約作文 ②で押さえたことを、さらに良い表現を考えて読み手に伝わるよう書き表す

■5年生の作文について

入塾した時期や個人のペースによって、取り組んでいる教材には差があります。『きまぐれロボット』までを終えた段階で、集中的に読解問題に取り組む期間を設けています。そこでこれまでの作文で磨いてきた読解力・表現力が活かされます。問題を解くときにも、根底にあるのは作文を通して考えてきたことです。問題演習を十分にこなすと、『小さな町の風景』に入り、さらに物語文における表現力を高めていきます。

確認印